

教材教具名 うた「いるか」	教科(音楽)	
<p>教材教具写真</p> <p>谷川俊太郎 詩 (「ことばあそびうた」より) 林 光 曲</p> <p>「いるか」</p> <p>(著作権があるので詩・楽譜はのせられません)</p>		
<p>教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p>		
<p>1 ねらい 音楽の楽しさ、歌うよろこびを味わわせる。</p> <p>2 発達段階 高等部ではことばあそびを楽しみながら歌うこともできるし、音楽のリズムやメロディを感じて体を揺すったりして楽しむこともできる。 多様な障害や発達差を超えて一緒に楽しむことができる。</p> <p>3 使い方 少人数でも学年全員でも一緒に歌うことができる。 伴奏の音型が波を表しているような美しい形であるが、初めて教えるときの伴奏は旋律を右手で弾き、左手の単音で和声を添える形がわかりやすくよい。</p>		
<p>児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・初めて歌を伝えた時からすぐにその曲の魅力をとらえ、喜んでうたう生徒が多い。 ・「いるか」ということばが印象的で何度も出てくるので、その部分だけはすぐに歌える。 ・歌い方として いるか の「か」を強調しやすいリズムになるので、無造作に歌わず、できるだけことばをかたまりとして伝えるような歌い方を心がける方がよい。 		